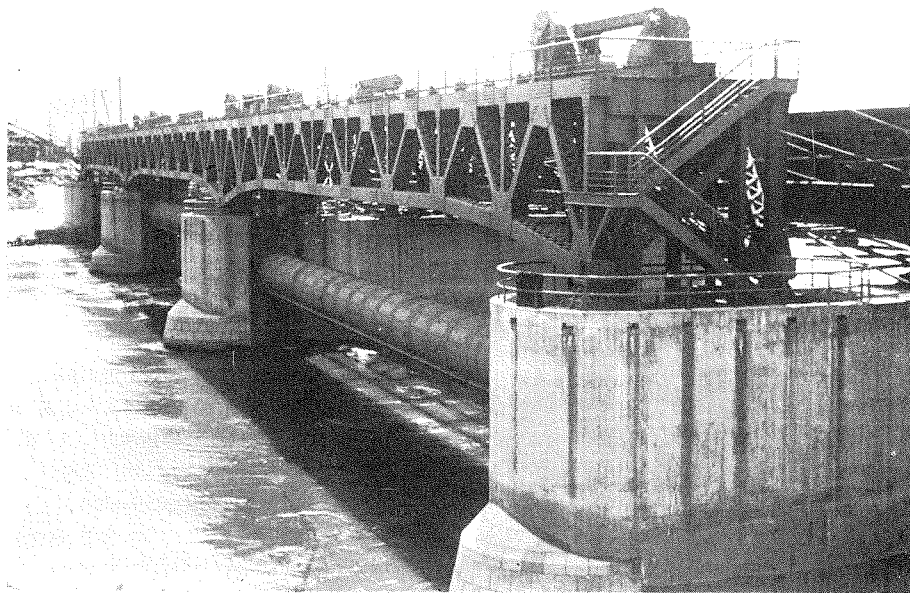


(第1圖) 長柄可動堰近平面圖。

長柄自在堰工事

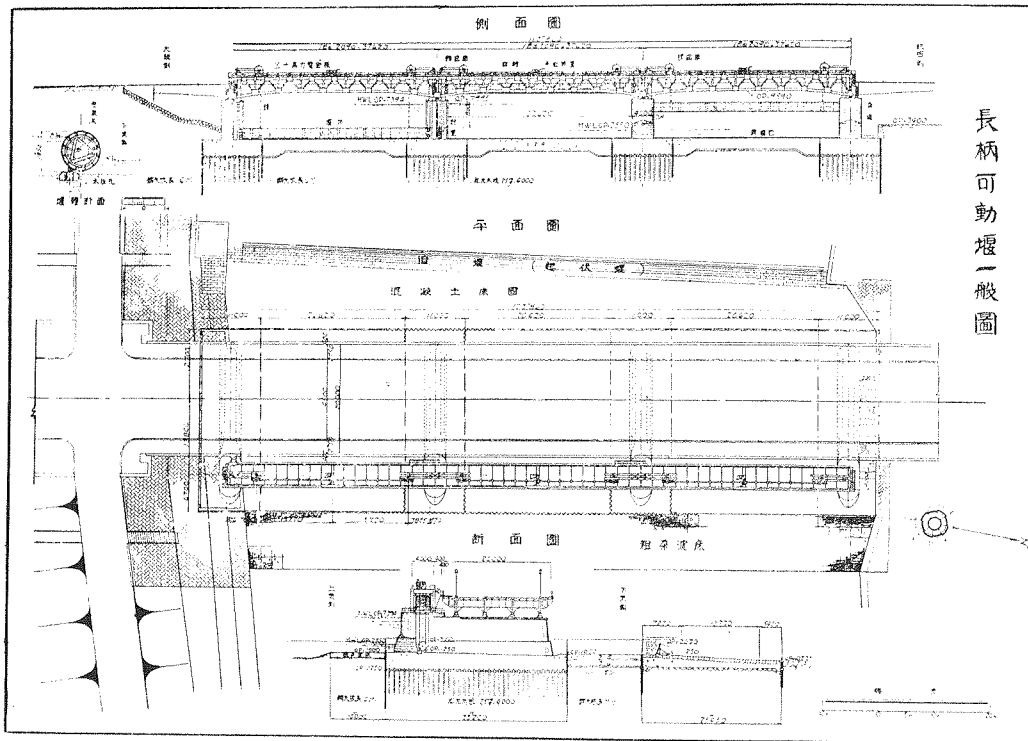
本可動堰は現在淀川低水流量調節の爲新淀川に設置せられてゐる起伏堰に代るもので、長柄橋の改築に附帶して築造された。長柄橋は延長 651m01 のゲルバー式鋼鉄桁橋で、 $(15m05 \times 1) + (37m62 \times 3) + (33m44 \times 15) + (25m00 \times 1)$ の 9 径間よりなり。幅員 20m である。

長柄自在堰はこの橋の左岸寄 3 径間にわたつて築造されたもので、径間 36m、径 1.8m の圓壩捲揚式の可動堰 3 連よりなり、径間 37m62 × 3 連の連続構鋼橋を有す。堰扉は重量 1 本に付 50.7 噸、各 1 本に對し鑄鐵塊 18 噸 1 對の對重を附し 30 馬力電動捲揚機を以て捲揚ぐるものである。

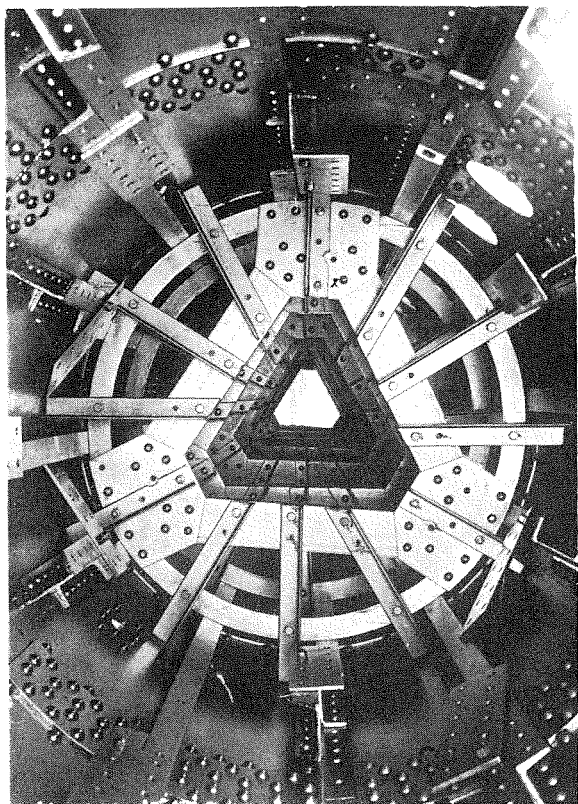
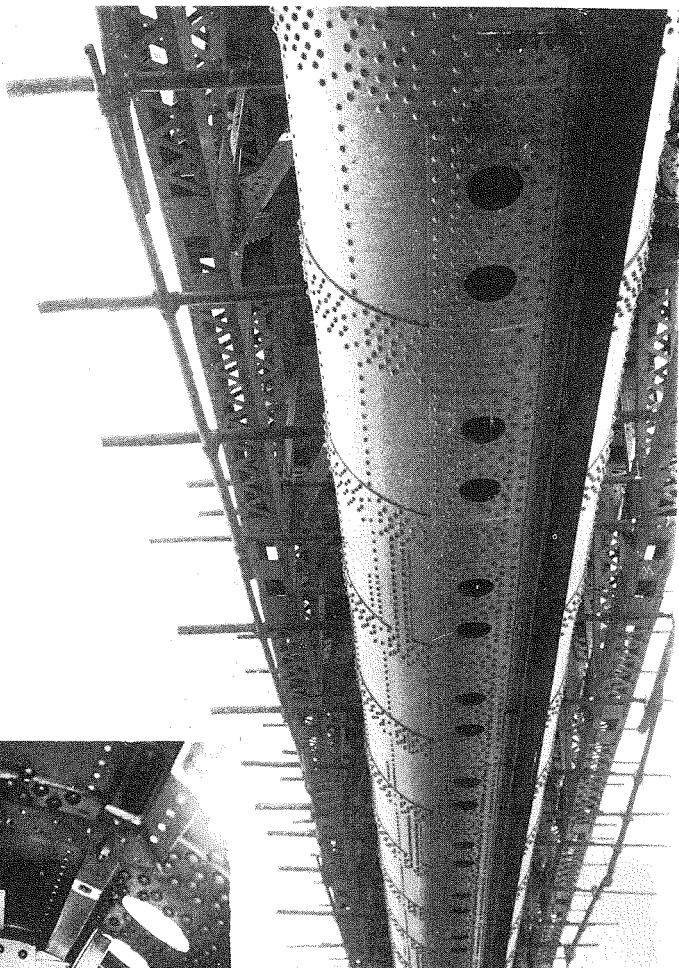


(寫眞3) 長柄橋に附帶して築造された長柄可動堰の連續構鋼橋で、徑間 3 @ 37m.62、延長 112m.86、鋼材重量 1588 噸。

(第3圖) 長柄可動堰一般圖。

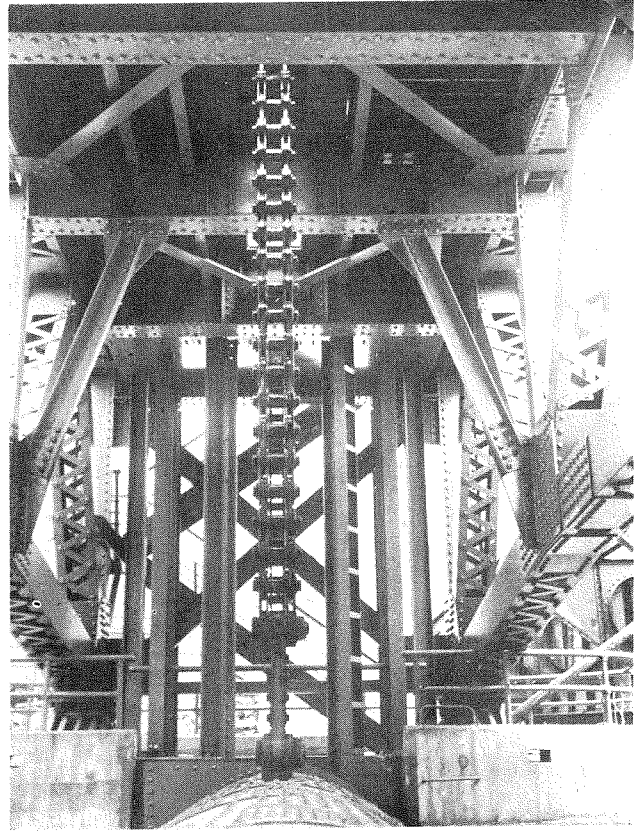


(寫眞 4) 可動堰々屏
を下より見上げたもの、
1本の重量50噸7。



寫眞 5) 堰屏内部の
構造・堰屏は長 36m、
直徑 1.8m の圓筒型で
ある。

(寫眞 6) 堰扉重量
50噸餘、電氣裝置に
依り捲揚げられる
が、寫眞は其吊揚用
の鋼鎖である。



(寫眞 7) 堰扉端部の構造・堰扉に
連結した鋼鎖は構橋上部の1對の鎖
車を経て對重に連る。對重は鑄鐵塊
にして堰扉1本に對し18噸のもの1
對が備へられてゐる。この寫眞では
對重は橋脚中の對重孔に入つてゐ
る。堰扉の兩端には上下2個の車輪
があり、橋脚に設けた軌條に沿ふて
滑動し昇降するのである。

